

テーマ

少子化もストップ！

一石二鳥、企業内学童インターン制度の提案

赤羽岩淵中学校
第二学年
生徒

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

学校の職場体験で保育園に行き、保育士さんという仕事を身近に感じたばかりだったから（東京新聞の記事）。実際にその空間に行き、実際に何か新しい体験をすることの大切さを知ったばかりだ。だから（朝日新聞の記事）。また最近、生まれて初めて大きな病気を入院、24時間医療現場で働く方たちの素晴らしい姿を目の当たりにしながら数日間も過ごしたことで、人のために働くということについて、真剣に考える機会になったため。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

① について ある企業が社員の子供をオフィスで預かり、様々な体験活動してもらおう「企業内学童」を夏休み期間に設けたところ、募集料がすぐ埋まるほど人気だった。日頃できない出会いや経験ができた子供にも好評で、社員からも受け入れ人数や期間延長を求める声があがるなど支持を得た。保育サービスを請け負う会社によると、夏休みなどの長期休暇中は特に親の負担も大きく、その間だけでも預けたいというニーズは高いということ。

② について 保育士起業家という肩書きで、新たな保育の在り方を提案している小笠原舞さんによると、子供にとって良い社会とは、大人が自分らしく生き、不安なく生きられる社会といえる。一人一人の小さな一歩、例えばお互いを認め合うあいさつなど、子育て支援は決して特別なことを必要としていくわけではなく、ゆるくつながることのできる環境づくりが大切だということ。

①と②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。

大人であって子供であっても相互理解を深めることが、お互いの生きやすさにつながるということ。理解を深め合うには、実際に人と向き合い、触れ合うことが大事であることが分かった。大人が子供と関わることで得られること、子供が親の職場で体験することで得られることも他国の事例を含め調べてみたい。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

私は初めて入院生活を体験し、病棟の先生や看護師の皆さんに一日中支えていただく中で、人との関わりが生まれる大きな力を実感した。AIの普及などにより、何事も「実際に」ということが大切になると強く感じた。まさに子育てなどは仮想空間で行うものではない。だからこそ朝日新聞の記事にあった「企業内学童」のような取り組みは価値があり、企業はもと積極的に取り組むべきだと感じる。特に若手社員が子供の世話を担うことは効果的だと考える。なぜなら結婚や子育てをイメージできない若者が多いことが、少子化の一因だからである。出産動向基本調査でも、子供と接した経験がある人ほど結婚や子育てを望む傾向が高いという結果が出ている。また東京新聞の記事にあたり、子供と接することで心が回復した例もある。子供は、在内に癒しをもたらすという存在となり得る。また、毎年頭を悩ませる夏休みの自由研究を親の職場訪問、職場体験とし、働くことを早期から意識させる。試みはどうか、各国の調査でも早期のキャリア教育は進学や将来設計に前向きな姿勢を持ちやすくなり意義深いとされている。私は海外の事例、記事にある内容を踏まえ「企業内学童インターン制度」を提案したい。学童やキャリア教育の場としての機能を国や企業が積極的に制度化することで大規模に普及することも可能。とにかく何事も実際に体験すること以上の学びはないと思う。改めてそう感じさせてくれたのも、私のキャリア形成に間違いなく良い影響を与えてくれた保育園での職場体験にもなるのだ。頼られる喜びを私に初めて実感させてくれた子どもたちに、今も心から感謝している。